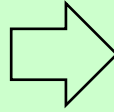


地域農業を担い後継者を育成 ～ 農事組合法人 館合ファーム ～

経営体の概要

設立年度：平成18年度
基幹作物：水稻6.0ha(乾燥・調製110ha)
経営面積：借地6.0ha



現在：令和3年度
基幹作物：水稻38ha(乾燥・調製195ha)
すいか3.5ha、ほうれんそう0.8ha 他
経営面積：自作地1.73ha、借地42.9ha、
作業受託51ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

農業従事者の高齢化、農業機械の過剰投資抑制等を考え、ＪＡおもものがわ（現 ＪＡ秋田ふるさと）で整備したライスセンターを運営・管理する「農事組合法人館合ファーム」を15人の農家で平成19年3月に設立。国営事業により農業用水が安定供給され県営ほ場整備事業により水田が大区画化されたことで水管理作業等の軽減が図られ、高齢化の進展もあいまって経営面積を拡大している。また、すいかやほうれんそう、しいたけの栽培にも取り組み、周年雇用の場を創出するとともに後継者の育成も行っている。

営農改善のポイント

①経営面積の拡大

農業用水の安定供給とほ場の大区画化により水管理作業が軽減され経営面積の拡大が可能となった。また、農業従事者の高齢化が進展したことより農地の流動化が進み、地域農業の担い手として農地を集積し経営を安定させている。



ライスセンター内の乾燥施設

②担い手の育成・確保

周年雇用を実現するため、すいかやほうれんそう、しいたけ(冬期出荷)を導入し、社員6名臨時15名を雇用している。また、社員6名のうち3名は組合員の後継者で、導入した作物の栽培を積極的に取り組ませることで後継者の育成を行っている。



ほうれんそうのハウス栽培

③栽培技術の確立・向上

水稻では密苗移植を導入し、資材費の削減や作業効率の向上が図られている。すいか栽培では、トンネル支柱立てとマルチ張りを行う機械を導入し、作業時間の短縮、労力の軽減が図られている。ほうれんそう栽培では、土壌の太陽熱消毒を行うことにより施設での周年栽培を可能としている。

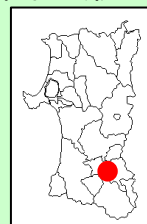


すいかのトンネル栽培

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
関係市町：横手市、湯沢市及び大仙市
受益面積：10,183ha
事業期間：平成13年～平成27年
事業目的：用水改良
主要工事：頭首工2箇所、用水路L=29.5km

位置図（秋田県）



平鹿平野地区

<問い合わせ先>

東北農政局
農村振興部農地整備課
電話：022-263-1111
内線（4460, 4459）

（令和3年度調査時点）